

京都嵯峨芸術大学 広報

本学関係者による展覧会情報

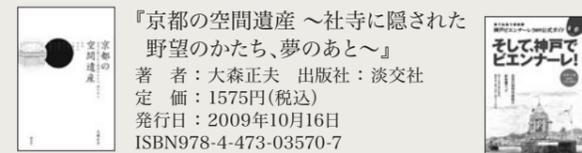
<p>■吉引ありさ／染織 『清流展 part-2』 日時：10月23日(金)まで開催中 会場：染・清流館(京都)</p>	<p>■入佐美南子／油画 『個展』 日時：11月24日(火)～11月29日(日) 会場：ギャラリーヒルゲート(京都)</p>
<p>■大森正夫／講義部門 『港で出合う芸術祭 神戸ビエンナーレ2009』 日時：11月23日(月・祝)まで開催中 会場：神戸メリケンパーク 兵庫県立美術館ほか神戸市各所(兵庫) ※神戸ビエンナーレ2009ディレクターとして参加。</p>	<p>『二科展』 日時：11月26日(木)～12月6日(日) 会場：京都市美術館(京都)</p>
<p>■吉水絹代・兼先恵子／染織 『日展』 日時：10月31日(土)～12月7日(月) 会場：国立新美術館(東京)</p>	<p>■瀧澤賢福／洋画・ミクストメディア 『6人の表現』 日時：10月20日(火)～10月25日(日) 会場：ギャラリーあじさい(兵庫)</p>
<p>■安藤隆一郎／染織 『蛸瀬五人展「染むる心象」』 日時：11月1日(日)～11月23日(月・祝) 会場：染・清流館(京都)</p>	<p>『二科展』 日時：11月3日(火・祝)～11月15日(日) 会場：大阪市立美術館(大阪)</p> <p>『二科展』 日時：11月26日(木)～12月6日(日) 会場：京都市美術館(京都)</p>

附属博物館／附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」／連続公開講座「京の美意識」スケジュール

<p>附属博物館</p> <p>■『一貿易扇の世界— 第2回京都嵯峨芸術大学所蔵 扇面画展』 日時：10月24日(土)まで開催中 10時～17時 休館日：日曜日 本学で所蔵する貿易扇の扇面画の中から約50展を中心に展示します。明治から昭和初期の限られた時代の希少な資料でもあり、独特のデザインをもつ貿易扇の世界をお楽しみください。</p> <p>■『知られざるインド細密画の世界 —大正期の木版複製インド細密画から—』 日時：11月20日(金)～12月20日(日)10時～17時 休館日：月曜日 大正期に日本で木版によって複製された「インド細密画の木版画」(本学名誉教授、画家の西真先生所蔵)には、職人の高度な技術が使われ、オリジナルとは違った魅力があります。オリジナルインド細密画の作品も同じ空間で観ることで、双方の時代を超えた美意識を感じてください。</p>	<p>■『一アートイベントショップ— FAN BOX』 日時：11月21日(土)～22日(日)※時間未定 主催：FAN</p> <p>■『嵯峨地域小中高大連携交流展』 日時：11月25日(水)～28日(土)10時～16時 主催：北波研究室</p> <p>■『第7回 SAGA ART JAM展』 日時：11月30日(月)～12月6日(日)※時間未定 主催：SAGA ART JAM</p> <p>■『日本・韓国・台湾三国合同韓国通度寺霊山殿壁画模写 EXHIBITION』 日時：12月8日(火)～13日(日)9時～17時 主催：京都嵯峨芸術大学 12月13日(日)10時～ 本学内にて国際シンポジウム開催予定</p> <p>■『大学院修士作品展』 日時：12月22日(火)～1月15日(金)10時～18時 ※最終日は16時まで 主催：京都嵯峨芸術大学大学院</p> <p>■『北欧のグラフィックデザイン/フィンランドのポスター展』 日時：1月19日(火)～27日(水)※時間未定 主催：観光デザイン学科</p>
<p>附属ギャラリー「アートスペース嵯峨」</p> <p>■『日本×アメリカ版画交流展 京都嵯峨芸術大学×サンタクララ大学』 日時：10月20日(火)～25日(日)10時～18時 ※最終日は17時まで 主催：造形学科版画研究室</p> <p>■『データグラスプロジェクト2009』 日時：11月5日(木)～8日(日)※時間未定 主催：メディアデザイン学科</p> <p>■『ガラパゴスの世界写真展』 日時：11月11日(水)～17日(火)※時間未定 主催：観光デザイン学科</p>	<p>連続公開講座「京の美意識」</p> <p>■第46回 10月24日(土)「宗教建造物装飾彩色の美 仲政明<本学准教授></p> <p>■第47回 11月21日(土)「京都の時代劇映画考 山内鉄也<映画監督></p> <p>■第48回 12月19日(土)「京真田紐の秘密と使い方 和田伊三男<京真田紐師></p> <p>■第49回 2月20日(土)「神主残酷物語 佐々木俊輔<平岡八幡宮宮司></p> <p>■第50回 3月13日(土)「嵯峨鳥居本と平野屋の歩み 井上典子<平野屋女将></p> <p>※いずれの回も14:20～有響館G401教室にて(参加無料)。 お申込み・お問合せは文化事業部まで。TEL.075-864-7898</p>

出版情報／メディアでの紹介

■大森正夫教授が執筆・監修した書籍が刊行



美術手帖2009年10月号増刊
港で出合う芸術祭
神戸ビエンナーレ2009公式ガイド
「そして、神戸でビエンナーレ！」
監修：大森正夫 出版社：美術出版社
定価：1260円(税込)
発行日：2009年10月10日

■藤木庸介准教授が共著で執筆した書籍が刊行

『観光の空間 視点とアプローチ』
編著：神田孝治
出版社：ナカニシヤ出版
定価：3045円(税込)
発行日：2009年9月
ISBN978-4-7795-0364-1

「編集後記」

2002年の第1号の発行から通算30号目を迎えた今号より、広報誌のデザインを大幅にリニューアルいたしました。学生・保護者間のもとより、教職員間の情報共有ツールとしての側面を強化し、余白を意識したデザインでスッキリと読みやすく、伝わりやすい内容の紙面作りを目指しました。これまでよりも一層質の高い情報の掲載を心掛けてまいりますので、ぜひとも本紙に対する皆様のご感想をお聞かせいただければ幸いです。(広報室)



学校法人 大覚寺学園
京都嵯峨芸術大学
大学院・芸術学部・短期大学部



京都嵯峨芸術大学広報 第30号 2009年10月15日発行 編集：京都嵯峨芸術大学 総務部 広報室
発行：学校法人大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学 〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地
TEL.075-864-7859 FAX.075-881-7133 info@kyoto-saga.ac.jp www.kyoto-saga.ac.jp

30

学生相談室

学生相談室の
取組みについて

特別寄稿 京都嵯峨芸術大学 准教授 | 学生相談室 室長 清瀧裕子

近年本学では、学生相談室の利用件数が増加傾向にあります。大学生活を過ごすにあたっては、時代とともに学生の状況や生活環境が様変わりし、様々な悩みや問題を抱えることも少なからずあるでしょう。充実した学生生活、そして学業を修めるため、学生それぞれのニーズに対応する大学としての受け皿が求められている現在、本学の学生相談室の取組みについて清瀧裕子准教授にお話をうかがいました。



清瀧裕子 きよたき ゆうこ

京都嵯峨芸術大学短期大学部講義部門准教授。学生相談室担当。専門は臨床心理学。本学での担当科目は芸術心理学、心理学、教育心理学、教育相談論、教養ゼミ。所属する学会・団体は日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本学生相談学会、日本芸術療法学会、日本遊戯療法学会。

Q 学生相談室はいつから学内にあるのですか？

A 本学の学生相談室は1976年(昭和51年)からあり、現在は講堂棟(C棟)3階の一番奥(北側)にあります。

Q 予約すればすぐに相談してもらえますか？

A 相談予約の状況によります。空いていればすぐお受けできますが、相談が多い時期は1~2週間待ってもらうこともあります。

1976年より学生相談室は開設されました。開設当初は心理学教員一人が担当していましたが、その後、相談件数の増加により非常勤カウンセラーが入り、4年前から現在の体制になりました。現在、清瀧が月・水曜日、非常勤カウンセラー3名が火・木・金曜日をそれぞれ担当し、13:00~17:00に開室しています。

相談は一回50分の予約制で、無料です。予約の方法は①学生課、保健室、清瀧研究室前にある「相談申込書」に記入し、清瀧研究室扉ポストに入れる。②学生相談室へ直接電話(075-864-7840:不在時は留守番電話)かメール(gakuseisoudan@kyoto-saga.ac.jp)にて相談予約を取る、という形になります。相談室には、基本的に「守秘義務」があります(本人の了解を得た場合、危機的状況の場合はその限りではありません)ので、人に言えない悩みを抱えている学生でも安心して相談に来てもらうことができます。

学生相談への相談数は、ここ数年増加しています。例えば平成20年度は、学生相談利用者は53名、年間相談の件数は457件でした。平成20年度の学生数は約1100名ですので、およそ20人に1人が学生相談を利用した計算になります。例年5月に新規相談数が増加し、6・7月、11・12月は相談予約がいっぱいとなる傾向にあります。その場合、臨機応変な相談受付ができないこともあり、今後の課題と言えます。

Q これまでどんな相談がありましたか？

A 対人関係の悩みが最も多く、学業上、性格、健康上、進路の悩みなど多岐にわたります。

Q 言葉で伝えにくい相談などは、どうすればいいですか？

A 「こんな相談してもいいのかな」と思うこと、うまく言葉でできないことでも遠慮なく一度相談に来てください。

学生相談では、基本的に学生の心理的問題・悩みについて相談を受けています。相談内容は対人関係の悩みが最も多く、他に学業上の悩み、自分の性格についての悩み、健康上の悩み、進路についての悩みなど、多岐にわたっています。対人関係についても、友人、家族など具体的な他者との関係に悩む学生もい

れば、人の目が気になる、教室が怖くて入れない、人と接するのが怖いなど、不特定の他者と接することに悩む学生もいます。

悩みは人それぞれです。もし「こんなこと相談してもいいのかな」と思うことがあれば、申し込みの際にメールや電話で簡単な相談内容を伝え、確認してもらっても結構です。また言葉にしにくい相談でも、「言葉にしにくい感じ」をカウンセラーとともにゆっくり読み解いていくことも可能です。実際、相談時に沈黙がちとなることは珍しくありませんし、うまくしゃべれないからとメモや手紙を持参する人もいます。一人ひとりのペースに合わせて、カウンセラーは相談を進めます。

Q 何度も相談できるのですか？

A 1回のみでも、継続しての相談でも受け付けています。また一度相談を終えた後に再度相談を申し込んでも結構です。

Q 現在、大学を休学していますが相談に行ってもいいですか？

A 休学中の学生も相談を受け付けています。

学生相談においては、1~数回の相談だけではなく、長期にわたる相談も少なくはありません。なぜなら、学生相談に来る相談の多くは、それまで自分で何とかしようとしたり、友人などからアドバイスを受けて解決しようとしたけれど、うまくいかなかったというケースが多く、また、複雑な心理的問題が絡んでいることが多いからです。そのため学生相談では、アドバイスで解決しようとする立場ではなく、学生自身がじっくりと自分の悩みと向き合い、自分で解決へと向かうのを援助するという立場を取ります。人はこれまで積み上げてきたものは簡単に変えられないため、一見した問題の大きさにかかわらず、解決へ向かうのに時間がかかる場合もあります。また、相談を継続する中で、問題が次々と形を変えていくことがあるため、乗り越えたかと思えば、次の課題が見えてくる場合もあります。そのため、相談が長期に継続されることも多いのです。実際、短期で相談を終える人もいれば、長期間、中には数年かけて相談し、ゆっくり解決に向かう人もたくさんいます。解決に向かう道筋は人それぞれですし、カウンセラーもそれを十分理解していますので、気をつかわず、安心して相談にきてください。

また休学中は、休養し、自分自身を見つめる時間は得られるものの、半年あるいは1年、一人で見つめ続けるのは容易ではありません。そこに、学生相談に週1回程度通い続けることによって、大学からつかず離れずの距離を持って自分のことは考えつつも、生活のリズムは崩さず、復学までのペースメーカーに学生相談がなることも多いようです。



Q 友達が悩んでいるのですが、一緒に相談に行けますか？

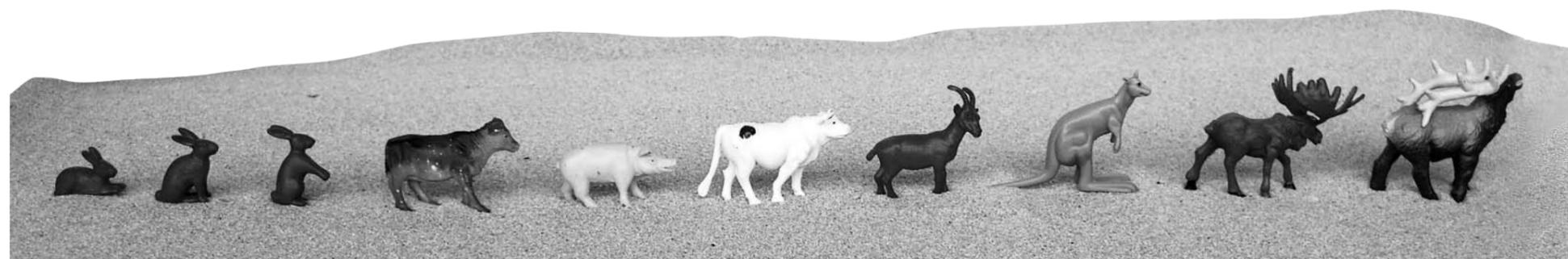
A まずはその友達に学生相談室の存在を教えてください。友達が不安があれば相談の申し込みや最初の相談に付き添ってもらっても構いません。

Q 在学生の親ですが、子供の事に関して相談できるのですか？

A 在学中のお子さんのご相談はお受けできますので遠慮なくご連絡ください。

学生相談室は、構造上、相談したい気持ちを持って相談に来る学生の援助に適しており、相談に来る意欲や問題意識のない学生には援助ができてにくいという特徴があります。援助ができてにくい学生に対しては、日常生活でかかわっているご家族や教職員、友達のほうが、学生の変化に気づきやすく、援助しやすい立場にあります。そのため、もしある学生に悩みや不安定さが見られ、けれども本人が相談には行かない/行けないような状況であれば、友達、教職員やご家族の方々が来ていただき、援助方法をともに考えるという援助の仕方が有効となることもあります。ご家族の方がお子さんのことに関して、また学生が友人のことに関しての相談がありましたら、遠慮なく連絡していただきたいと思います。ご家族や友人が、本人を抜きに来てくださっても、本人に付き添って来てくださっても構いません。

また、発達障害を抱える学生も入学してきています。発達障害は個々に認知的特性が強いため、教職員には十分に理解できないことがあり、そのため、教職員は接し方に困惑し、学生自身も不適応感を抱えることがあります。逆に、学生の認知的特性を周囲が認識して接すると、お互いの誤解やすれ違いが減り、よりよい関係を築きやすくなります。ただ、そういった認知的特性は、日常の教職員の指導の中で容易に見つかるわけではないため、これまでの援助や学生個人の特性を熟知されている保護者の方々から情報をいただくことが重要となります。その場合、発達障害についても専門知識のあるカウンセラーのいる学生相談室を利用していただくのも一つの方法です。



NEWS

KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS PUBLIC RELATIONS

理事会報告

学園創立40周年 記念事業について

広報誌第28号でご報告した本学の耐震補強工事については、耐震補強工事を予定している建物について実地調査を終え、耐震補強の工法や耐震補強実施要項などの基本設計がまとまり、9月29日(火)に理事会を開催、3社からの見積提出を経て施工業者を清水建設株式会社に決定しました。キャンパス整備委員会は耐震補強工事と並行し、棟内改修、玄関ホール改修、周辺緑化、省エネ対策などの実施に向け、引き続き検討を行ってまいります。

40周年記念イベント委員会は、40周年記念ロゴマーク作成にあたり、先生方のご協力、多数の案が提出され、最終選考段階に入っています。今後開催されるイベント等については、ロゴマークを積極的に使用した広報展開をはかります。また40周年のイベントとして、「京都嵯峨芸術大学教員・卒業生作品展(仮称)」(予定)も計画、京都市美術館別館および、嵯峨嵐山地区のギャラリーその他のスペースを会場として、さまざまな空間・さまざまな文脈の中に作品を置く計画を進めています。(総務課)

役員人事

5月28日(木)の理事会において、堀信一郎監事の逝去に伴う後任人事として、現教育後援会長である高家昌昭氏が選任されました(平成21年6月1日付)。

9月29日(火)の理事会において、高岡義寛理事の辞任に伴う後任人事として、元京都国立近代美術館館長の内山武夫氏が選任されました(平成21年9月30日付)。(総務課)

大学報告

教育後援会報告

平成21年度総会が7月12日(日)に有響館において開催されました。20年度事業報告・決算と21年度事業計画・予算が承認され、新役員が選出されました。引き続き、坂田学生部長から学生の進路支援について講演が行われ、閉会后、学科分野別に担当教員との懇談会、希望者には成績関係や学生生活、就職関係についての個別相談会が実施されました。(総務課)

2009年度 オープンキャンパス報告

2009年のオープンキャンパスは、6月21日(日)、7月31日(金)、8月1・2日(土・日)を終え、来場者数は合計で1,082人、前年同期比では3%の微減となりました。6月は微増、7月31日と8月1日も順調に前年比増となったものの、8月2日の来場者

が前年同期比55人の減と大きく割り込み、総じての微減となりました。イベントでは、体験授業を強化し、前年に続き大覚寺を含む周辺環境の見学・体験等を行いました。大覚寺の宿坊宿泊体験イベントでは、福岡県で行ったセミナーでの募集告知による参加もあり、10人の参加をいただきました。また、JR京都駅と大学間送迎バスの午前便を1から2便に増便しましたが、連日2便ともほぼ満席であったことから、来場自体が集中している午前中の対応力の強化を図っています。(入試課)



夏期休暇中の海外美術研修報告

夏期休暇期間を利用して、2件の海外美術研修が企画・実施されました。ひとつは、7月末から約2週間、イギリスにあるエディンバラ美術大学でのサマースクールに参加するというもので、本学の佐野仁志先生と清瀧裕子先生が引率を担当、15名の学生が参加し、複数ある実習の中から各自が希望の実習を選択して制作を行いました。もうひとつは、北欧デザインの中でも最も活気に溢れた国であるフィンランドを訪れ、現代美術や複数のデザインの現場を見学する企画で、9月中旬より約10日間をかけて研修を行いました。こちらは観光デザイン学科の金氏脩介先生と辻勇佑先生が担当し、34名の学生の参加がありました。(教務課)



2009年度9月卒業・修了報告

2009年9月16日(水)の教授会において、芸術学部6名、短期大学部9名の卒業、および短期大学部専攻科1名の修了を認定し、9月30日(水)に卒業・修了式を挙行、学長から学位記が授与されました。(教務課)

小学生夏休み講座報告

今年で7年目となる夏休み恒例企画「小学生夏休み講座」を8月3日(月)～5日(水)の3日間開催しました。1・2年生「未来の自動車を作ろう」(北村正己教授担当)、3・4年生「飛ぶものを作ろう」(辻勇佑准教授担当)、5・6年生「ゆめから島を作ろう」(金氏脩介教授担当)と学年グループ毎にテーマを設定して制作し、最終日には保護者も参加して全学年合同の合評・鑑賞会を行いました。講座に参加した小学生は近隣を中心に133名と過去最高となり、立体工作の面白さをじっくり体験できたことでも有意義な夏になったのではないかと思います。今後も本学の特色を生かし地域に開かれた大学として皆さまのニーズにお応えできる生涯学習をめざしていきます。(文化事業課)



夏期休暇中の キャリア支援活動について

2009年9月1日(火)から9月4日(金)までの日程で、東京クリエイターツアーを実施しました。このツアーは、「首都圏方面での就職活動を考えている」「職種としてクリエイター職を希望している」「大手・中堅企業の人事担当者や東京での就職や生活について直接話を聞きたい」などの意思を持った学生に対して、就職活動の支援を行うものです。

東京での企業訪問では学生から積極的に質問を投げかけ、企業担当者及びOB・OGを招いての懇談会では自ら話しかけていくなど、多くの学生にとってまたとない機会を生かすことができました。参加した学生らは、このツアーを通して東京の活気やスピード感を肌で感じ、東京で働く先輩達から直接話を聞くことによって、今後の就職活動に大きな刺激を受けるとともに、就職に対する意識向上につながった、と感想を述べています。(キャリア支援課)

平成21年度科学研究費補助金

単科大学、特に芸術系大学では科学研究費補助金の獲得が難しいといわれてきましたが、本学では平成21年度新規課題の採択率(応募数に対する採択数)が50%と、芸術系分野の全国平均25%を上回っています。ここ数年科学研究費補助金の応募、採択とも増加し、平成15年までは1件程度だったのが、新規・継続課題を含め平成19年度が1件190万円、平成20年度が2件405万円、平成21年度は3件422万円と着実に増加しています(間接経費含む)。

科学研究費補助金の獲得は、単に外部資金の導入以外に、研究水準の向上や社会への研究成果の還元などが期待でき、応募数の増加が採択数の増加に結びつくことから、今後も積極的に取り組む必要があります。(芸術文化研究所)

訃報

・本学園監事をお務めいただき、元教育後援会長の堀信一郎様が平成21年4月30日に逝去されました(享年66才)。

・短期大学部教員として長年ご功勞いただきました、杉山真由美准教授が平成21年5月15日に逝去されました(享年55才)。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。(総務課)

教職員人事

【教員人事】6月17日(水)の教授会において、三好学長より、箱崎隆昌教授を副学長に任命することが報告されました(平成21年6月17日付)。なお、平成23年3月までの任期となります。

【職員人事】入試、教務関係業務等でご活躍された若林静江氏が、一身上のご都合により退職されました(平成21年8月10日付)。(総務課)

□嵐芸祭開催直前告知

実行委員長が申す、今年の嵐芸祭テーマはコレ!

「日頃の不安や不満をカイジウに見立て、それを乗り越えるというコンセプトからできた、今年度の嵐芸祭テーマ「カイジウ」。企画にはゴジラやUMAに関するもの、装飾の目玉としてカイジウ灯籠の点灯などがあります。さらに、今年度は学生参加率の向上を目指し、「1クラス1企画」を提案しています。企画数、参加学生数も増え、いつも以上に賑やかで楽しめる嵐芸祭になっていると思います。みなさん是非、ご来場ください!」(嵐芸祭実行委員会 実行委員長 濱地香須梨)

嵐芸祭：2009年 11月21日(土)、22日(日) 10時～21時 会場/京都嵯峨芸術大学



TOPICS

卒業生の活躍

江崎洋子 えさき ようこ 2001年 嵯峨美術短期大学 芸術文化研究所 研究生 終了

鶴匠&大学職員として働く江崎洋子さん

大学で経験した作品制作と鶴匠、ふたつの共通点とは?

—現在のお仕事を教えてください。

2006年から宇治川で鶴匠をしています。観光客の方に鶴匠を見ていただく仕事です。現在、女性鶴匠は全国で4名だけなのですが、その内2名が嵯峨美(現・京都嵯峨芸術大学短期大学部)出身で、先輩の澤木万理子さんとがんばっています。そして2007年10月から京都文教大学のフィールドリサーチオフィスという地域連携を推進する部署で働いています。基本的には年間通して大学に勤務していますが、鶴匠シーズンの6月～9月には、鶴匠の仕事がプラスされるという状態ですね。

—鶴匠のお仕事の苦労話や喜びなどを教えてください。

生き物相手の仕事というのが一番苦労します。鶴はとてもデリケートな鳥のため下手な持ち方やエサのやり方をすると、すぐ私から離れていってしまいます。始めた頃に比べると鶴たちもだいぶ私に慣れてくれ、のどを膨らませたり、私の手に乗る鶴もいます。仕事の喜びは鶴と自分の距離が縮まったと感じられる瞬間ですね。また現在の鶴匠は、いかにお客さんを楽しんでいただけるか、見やすさ、手觸りさびや姿勢の美しさなど「魅せる鶴匠」をテーマにしています。そのためお客さんからの拍手や良かったという声か聞けたときが一番嬉しいですね。鶴匠という伝統文化を継承し、後世に繋いでいくのが私たちの仕事だと考えています。

—学生時代のお話や今後の思いなどを教えてください。

私は本科の絵画IIIコース、そして専攻科の混合表現コース、そして研究生と5年間在学しましたが、とても楽しかったです。特に絵画コースはとても自由で、面白いモノをつくるだけでなく、作品のコンセプトを考え、それに基づくモノづくりができる環境だったのが良かったと思います。合評会も印象に残っています。本科の時は人数が多かったので、1人に割り当てられる時間は十分じゃありません。よく、合評が終わってから仲の良い友達と近くの喫茶店で合評の続きをしたりしましたね。美術から鶴匠へ……ぜんぜん違う方面の仕事と思われるかも知れませんが、私も卒業して4年くらいは個展をしたりグループ展に出展したりしていました。20代の半ば、今後どうするか考えた時期に出合ったのが鶴匠だったんです。私の作品コンセプトは時間をテーマに「今」という一瞬を表す事と考えていました。私が作っていた作品と鶴匠との共通点は、「今」という一瞬の時間を扱うことかな、と最近思いますね。鶴匠もシーズン中は同じ事をしているようで、毎日、川の状態や鶴の状態、私自身の状態やお客さん、風も天気も何もかも違いますが、一瞬一瞬を積み重ねていくという点で鶴匠と美術とが交差していけばと、ずっと思っているんです。



鶴の世界を語る江崎さん(右)と澤木さん(左)。

教員・在学生の活躍

若者マカオ旅行企画チャレンジ 若者よ、マカオに集え! 産学協同プロジェクトが始動

「若者マカオ旅行企画チャレンジ」プログラムがマカオ観光局主催のもと今年の4月からスタートしています。本学をはじめ全国から観光関連の専攻をもつ10大学が参加するこの企画は、世界遺産エリアとして近年発展してきたマカオの地に若年層の渡航を呼びかけるため、若者の視点でマカオ旅行商品の企画・販売をしてもらおうというコンセプト、旅行商品のテーマやコンセプトを考え、そのユニークさや販売実績で最優秀大学を選出するという企画。観光デザイン学科長・真板教授率いる本学学生チーム10名は既に8月24日(月)～28日(金)の期間にマカオの地で世界遺産や食文化などのリサーチを実施し、有意義な成果を持ち帰った様子。真板教授曰く「本学の学生はみんな絵が上手く、日々リサーチを絵で記録していました。得意分野を活かした成果の発表は期待できますよ!」と意気込みも十分。また11月の嵐芸祭(学園祭)では企画案の学内発表も予定。翌年3月まで実施期間とする本プログラムの展開に要注目です。(広報室)

卒業制作展ポスターデザイン公募 ポスター1万枚、DM2万5千枚、賞金5万円… こんなデザインを手掛けてみないか?

在学中に学んだ集大成を発表する「卒業・修了制作展」。毎年2月上旬に京都市美術館と本学にて開催するこの制作展に關し、昨年は広報ポスターのデザインを学内公募しました。今年度の「第38回制作展」では嵐芸祭実行委員会が中心となってデザイン公募を行い、11月の嵐芸祭(学園祭)にてエントリーされたデザインを展覧会形式で展示し、最優秀デザインには5万円分の図書カードを授与する予定です。制作展を広報するため、今年度はB3ポスター約1万枚、DM約2万5千枚を印刷予定ですが、学生にとっては自分のデザイン作品がこんなに多くの印刷物となって全国へ配布されることは非常に稀な経験となるはず。 「大学を盛り上げたい」「作品発表の場を提供したい」「キャリアにつながる成果を残したい」など、今年度の嵐芸祭実行委員会が高いモチベーションと目標を掲げながら実施する制作展ポスターデザイン公募に、どんどん参加してください。デザイン公募に関する詳細情報は学内クラブ棟1階の嵐芸祭実行委員会室、または事務局・教務課、広報室まで。(広報室)

地域連携

「五山送り火 with 嵐山灯路」愛宕古道街道灯し」レポート 学生サークル「竹造-TAKEZO-」が 大学と地域の連携に灯りをともし!

8月16日(日)、阪急「嵐山」駅前広場にて「五山送り火 with 嵐山灯路」が阪急電鉄株式会社主催のもと開催されました。「五山送り火」と「嵐山灯籠流し」を同時に楽しむこのイベントに本学は企画協力として参加し、学生サークルの竹造-TAKEZO-が制作した巨大提灯を含む約60基の提灯が会場をやかな光で演出しました。また8月23日(日)～25日(火)にかけて「愛宕古道街道灯し」が開催され、同じ竹造や地域の方々制作した提灯が愛宕神社から二尊院、清涼寺までの街道沿いに並びました。25名を超える学生で構成された竹造は、毎年5月下旬頃から竹の伐採を開始し8月の各イベントまでに大小250基あまりの提灯を制作したそうです。そして今年には彼らの活動が京都市に認められ、「愛宕古道街道灯し」への取組みが大学と地域との連携による取組みに対して助成金が交付される「平成21年度学まちコラボ事業(大学地域連携モデル創造支援事業)」として認定されました。(広報室)



いとへん展レポート いとへん展から始まる 芸大生の横糸のつながり

四条・烏丸の京都産業会館を会場に今年から始まった「いとへん展」。本学のほか京都市立芸大、京都精華大、京都造形芸術大、成安造形大、大阪成蹊大芸術学部の芸術系6大学が一室に会し、各展示ブースで学生作品を紹介するこれまでにない内容でした。オープニングには門川京都市市長をはじめ6大学の学長・副学長が勢揃い。中で

大学行事予定 Nov.2009 - Feb.2010

- | | | | |
|----------------------|--------------------------|-----------------|------------------------------|
| 11月1日(日)～3日(火・水) | 推薦入試(短期大学部、芸術学部) | 1月16日(土)・17日(日) | センター入試(芸術学部) |
| 11月20日(金)～23日(月・火・水) | 嵐芸祭(準備・後始末含む)※開場は21日、22日 | 1月22日(金)～24日(日) | 前期一般入試(短期大学部、芸術学部) |
| 11月29日(日) | 前期大学院入試 | 1月25日(月)～30日(土) | 後期定期試験期間 |
| 12月13日(日) | 前期自己推薦入試(短期大学部) | 1月27日(水) | 学園創立記念日 |
| | 特別入試(短期大学部、芸術学部) | 2月3日(水)～7日(日) | 制作展 |
| | 月例法要 | 2月16日(水)～23日(水) | 後期集中授業期間 |
| 12月15日(水) | 月例法要 | 2月23日(水) | 後期一般入試(短期大学部)、後期専攻科入試 |
| 12月23日(水・木)～1月7日(木) | 冬季休業 | 2月24日(木) | 後期一般入試(芸術学部)、後期大学院入試、3年次編入試験 |
| 1月8日(金) | 授業再開 | | |
| 1月15日(金) | 月例法要 | | |

もシンポジウムや演奏会などイベントが目白押し。会期中、特に印象深かったのは学生同士の交流。普段は接触の機会が少ない他学の学生同士が作品を通し、大学や専攻を越えて仲良く交流している姿が多々見受けられました。来年も継続予定の本展、学生同士の横糸が織り成す次なる「いとへん展」に期待が高まります。(広報室)



附属機関

博物館・ギャラリー企画報告

5～8月の間ギャラリーでは、「新谷かおる・河井リツ子・安斎レオ 3人展」、「日本観光ポスターコンクール入賞作品展」、「CIRCULATION 1」、「京都嵯峨芸術大学 造形系日本画分野日本画制作工房/伝統・創作工房 日本画作品展」、「スリランカ写真展」の5件の展覧会が開催されました。研究室主催の展示に加え、卒業生作品や有志による展覧会の開催もあり、幅広い作品を観る事ができました。

博物館では2件の展覧会が開催されました。「嵯峨大念仏狂言展」では、嵯峨大念仏狂言保存会のご協力をいただき、実際に使われている装束、面、小物を中心とした展示に加え、ワークショップ、展示解説も行い、嵯峨野に息づく伝統芸能を多角的に紹介しました。学生のみならず、地域の方々にも多数ご来館いただきました。京都嵯峨芸術大学の先人達 第2回 奥村厚一 素描展」では、1971年から3年間、本学の前身・嵯峨美術短期大学にて日本画の指導をされた奥村厚一先生の、素描を中心に展示をしました。対象を厳しく見つめ写生した作品は、小さな画面とは思えない程力強く、学生には良い刺激となったのではないのでしょうか。前・後期の双方にご来館された熱心な方も多数見受けられました。(博物館・ギャラリー課)